

Luisito (Butch) Pongos : APMM Representative in Japan / JALISA Paralegal Intern

ルイシト（ブッチ）ポンゴス：アジア・太平洋移民ミッション日本代表／日本国際法律家協会
インターン

「フィリピンの非核運動 歴史的、現代的視点」

イントロダクション

約20年前、フィリピン人は、バターン原発（BNPP）反対の闘いをしていました。バターン州モロンの375ヘクタールのNapot Pointの原発と言われる建設を推し進めるフェルディナンド・マルコス大統領と激しく戦いました。

福島第一原発のように、バターン原発はウェスティングハウス社によって建築されました。

今日の福島で何が起きたのかを見ると、フィリピンの人々はバターン原発稼働に反対したのは正しかったと言えるでしょう。

なぜフィリピン人はバターン原発に反対したのか？

反対の理由は、バターン原発がフィリピンの人々にとって危険で、異常で、重荷となるからです。

危険なバターン原発

バターン原発によって突きつけられる危険はリアルなものでした。地震や火山噴火に弱い地質的に危険な場所にあります。それはコミュニティやその地方の人々の命や生活にとって非常にハイリスクです。

2つめは、核廃棄物の問題です。当時マルコス政権は核廃棄物を貯えたり、処分したりする効果的な技術がありませんでした。

異常なバターン原発

バターン原発に関する契約は、マルコス独裁による汚職のショーケースと巨大権力の場でした。ウェストンハウス社は安全に関する悪い記録があります。それにもかかわらず、ウェストンハウス社とフィリピン政府間の協定が結ばれました。バターン原発のコストは当初6000万ドル（日本円で約6億円）でした。しかし23億ドル（約2300億円）に膨れ上がり、その中には少なくとも1700万ドル（約1億7千万円）がマルコス一族のポケットに入ったと言われています。

重荷となるバターン原発

バターン原発が、マルコス独裁の20年の間にフィリピン人に降りかかったすべての悪事を表しているだけではありません。それは、フィリピン人の正当な利益と相いれないし、これからも相容れません。コストだけでも、フィリピン人全員をふらつかせ、まだ生まれていない子どもさえ原発のために借金を背負っている状況です。今でも、フィリピン人は、一般家庭に何の恩恵ももたらさないこの怪物のために、まだ支払いを続けています。

フィリピン人の反応

フィリピン人はバターン原発建設と稼働反対の共同行動を起こしました。「*Welgang Bayan Laban sa Plantang Nuklear* (反核ゼネラルストライキ)」という反核ストライキを1985年6月18日から20日まで行いました。何十万もの人々が闘いのために街に出て、国内外からのサポートを得ました。人々の決定は、マルコスの後継者ーコラソンアキノ大統領によって中止させられるまで、問題になっていた原発を棚上げにすることでした。

バターン原発の稼働（復活）

2008年、バターン原発復旧と稼働の立法への取り組みが、グロリア・アロヨ大統領のもとフィリピンの第14下院議会に提案されました。

第15下院議会はバターン原発を再び復活させるもう一つの法案を提出しました。

同じ年の11月、国の電力会社は韓国の電力会社とバターン原発試運転が可能かどうかの予備調査を目的とした覚書を結びました。

2009年には12月には、フィリピンの国の電力会社は韓国電力会社がバターン原発は復旧できると勧告したと発表しました。

それからフィリピン政府は、2010年、2011年の国の所要電力の供給ギャップの可能性を引き合いにし、バターン原発をもう一度復活させるキャンペーンを全力で行いました。それだけではなく、新しく13の原発を作る可能性にも言及し始めました。

これら全て、人々の強い反対にあいました。

核政策をとる現政府

現在のベニグノ・アキノ大統領は、「バターン原発はもはや彼の政権の選択肢にはない」ときっぱり言っています。その理由は、「それによって引き起こされてきた多くの社会的問題、と活断層とそのほかのことを考慮に入れた問題があるからです。

しかし、アキノ陣営のもとで脱原発のフィリピンは可能なのでしょうか。

もちろんできません！

真実は、就任式でアキノ大統領は国内の原発使用に対する新たな関心を大ぴらに語ったのです。

彼の政権は何人かのフィリピン人がすでに原発稼働のトレーニングを行っていることを発表し、新しい場所の調査が現在進行中なのです。

この表明で、いくつかの大きな会社（韓国電力会社以外の）、国内外の会社が、すぐさま投資に対する関心があること表明しました。それは、日本の東芝、関西電力、東京電力、フィリピンのコファンコ財閥のサンミゲルコーポレーションです。

続く反核のたたかい

バターン原発復旧と核選択への牽引は、国民全体に及ぶ深刻な危害になるでしょう。

フィリピンでもどこの国でも、原発政策は電力危機の解決策ではない

バターン原発を復旧させる理由はないし、エネルギー省からのデータでは、必要な電力以上の4212メガワットを現在供給しています。また、再生可能な地熱、風力、水力エネルギーはまだ使い尽くしていません。なぜ国民に余分で好ましくないエネルギーにお金を使わせるのでしょうか？

原発は火力発電より高い

原子力エネルギーは「安くて測定できる」という考えは、最初に原発が建設された時から間違いだとわかっていました。事実、原発は結局維持するにはコストが高いことがわかりました。そして、原子炉を動かすためにウランの輸入が必要だというような、私たち自身の石油依存性がウラン依存症にとってかわることに気がつくでしょう。

人々の生活を永遠に不安定なものにする原子力発電

バターン原発と原子炉の安全性についての同じような議論が、今日でもあります。2011年3月11日福島の事故は、この議論のはっきりとした証拠でもあります。

広範な国際連帯の呼びかけ

フィリピン脱原発運動は、民主化運動と別ではありません。私たちの脱原発運動は、外国の支配、巨大企業帝国、圧倒的多数の人々を虐げ搾取している封建的地主に対する闘いの一部です。バターン原発とフィリピンの原発建設計画は、私たちへの圧迫と搾取を象徴しているので、私たちは許さないでしょう。日本にいるフィリピン人ですえ、これには反対しています。それは私たちのような移民労働者もまた、現在のフィリピンの中では、圧迫と搾取されているからです。

さらに、フィリピンの闘いと日本の脱原発、そして核軍縮の要求は、本当の平和という私たちの共通の強い願望によってつながっています。それは、ある地域の闘いではなく、国際的な国境をまたいでの闘いです。

私たちの国、そして世界の全ての原発を廃絶するまで、連帯し、闘い続ける決意を固めましょう。そして私たちの繁栄、私たちの子どもの繁栄のために、核のない地球を作りましょう。